

令和7年度第3回白井市総合計画審議会

議事概要

日 時：令和7年10月21日（火）午前9時半から午前11時00分まで

場 所：白井市役所本庁舎4階大委員会室

出席者：【委員】

関谷昇会長、松浦健治郎委員、鈴木清孝委員、成田秀雄委員、中野七生委員、
中村教雄委員、清水達人委員、林陽子委員、亀山二三雄委員、佐野由加里委員、
瀬口千恵子委員

【事務局】

板橋企画財政部長、村越企画政策課長、齋藤係長、飯田主任主事
傍聴者 5名

1 開会

2 議題

(1) 前期基本計画素案について

○会長 議題1について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 【資料1】について説明

○会長 今、事務局のほうから、パブコメの募集結果、それに対する回答案とともに、答申案の主に修正箇所を中心に説明をいただきました。今日は、特にこの箇所というふうに限定をしませんので、全体にわたってお気づきの点があれば、御質問、御意見等頂戴できればと思います。どうぞ。

○委員 私、途中からですので、分かっていないところがあって申し訳ないのですが、恐らく皆様方は分かっているかもしれないのですが、例えばⅢ-6ページ、成果指標というのがございますけれども、成果指標に、住民意識調査というのは、目標値は令和11年ですと、現状値は令和6年ですということで、令和6年に5年を足して令和11年に行っているから、令和12年にならないのかなという問題と。例えば、これは住民意識調査で令和何とか年となっているのですが、ほかのところは年度というのがありますね。年と年度は、どこが違うのだろうか。

例えば、年というのは、概ね時期が決まっているから特定できるのであって、年度というのは年度内でやるから年度と言っているのか、そこら辺のところ、すみませんが、教えてください。

○事務局 ありがとうございます。一応アンケート結果につきましては、その実施年を書

かせていただいているところです。年度となっているものにつきましては、その年度中に行った結果や、年度中の集積結果といったものを年度と表現しているといったすみ分けて書かせていただいているところです。

○委員 そうしますと、特に統一するつもりはないと。

○事務局 改めてルールを整理させていただければと思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 非常に分かりやすくまとめていただいて、どうもありがとうございます。ちょっと気になったところ、幾つかお話ししたいと思えますけれども。

一つ目が、Ⅲ-16ページのさっき子供食堂の注積のことを解説いただきましたけれども、このページでいうと、注積が二つあって、交流の場の着手数ということで、米印の補足とか、ちょっと分かりにくいかなと思います。だから、注積は全部、例えば、そのページの下にまとめていただいたほうが分かりやすいかなと。

それから、Ⅲ-20ページの生涯学習事業の参加者数の目標値が人数になっていて、どこか別のところでは、人数だと、人口が減るのにおかしいんじゃないかみたいな話があったのだけれども、これは人数になって、何でだろうみたいな。何でパーセンテージになっていないのかなと、そこがよく分からなかったです。

それからあと、Ⅲ-26ページで、先ほど委員の方が、Ⅲ-24で、老朽化した建物の対応を進めるというのを方針に入れてくださいという話があったのですけれども、施策のほうを見ると、多分、住宅ストックの利活用みたいなものが事業には書いてあるのだけれども、この施策には、それが書かれていないのです。今後のビジョンを整理するとか、抽象的なことを書いてあるので、多分、住宅ストックの再生みたいなものも、この文言に入れていただいたほうがいいのではないかなと感じました。

あと、さっき聞き忘れたかもしれないのですけれども、このフロントランナー事業というのは、この表のグレーの部分がそうなのですか。そこを聞き忘れて。

○事務局 その事業一覧でいうところの中心都市拠点・生活拠点の部分がそれに当たりまして、複数掲載事業をグレーにしております。

その中の「若い世代が定住したいまち」のところにあります中心都市拠点・生活拠点づくり事業、こちらが3か所にまたがっております、こちらもフロントランナー事業と考えているところです。

○委員 中心都市拠点・生活拠点づくり事業というのがフロントランナー事業ということですか。グレーがいろいろありますけれども、これは複数掲載というのがグレーということで、フロントランナー事業は、これには書かれていないのです。どこがフロントランナー事業なのか書いていないということですね。

○事務局 そうです。

○委員 ちょっとこれ分かりにくい。中心都市拠点の何とか事業というのをフロントランナー事業として位置づけたということですか。分かりました。

○事務局 ありがとうございます。補足の表記の仕方は、もう少し工夫できる記載方法があれば、模索していきたいと思います。

20 ページの学習参加者数なのですけれども、確かに人口に左右される部分なのですけれども、地域交通は全体に係る部分であって、これは、その中のちょっと対象者を絞った部分での参加人数となりますので、こういった人数を掲げさせていただいているようなところとなります。

老朽化の 25 ページの表現につきましては、住宅ストックの部分がちょっと見えづらいというところがあるので、こちらは答申までに一度調整させていただければと思います。

以上です。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 Ⅲ-32 のところで、上のほうの施策目標ということで、今回修正されましたけれども、今後の事業の見通しについてということで、「事業を拡大する見通し」ということで、その後のページで、例えば新たな産業でにぎわうまちということで、こういった企業も、恐らくここの中に入ってくると思うのです。

その下に、今度は「事業を縮小する見通し」というのがあるのですけれども、これ両方だと単なるバブル景気みたいに感じてしまうので、むしろ、なかなか伸びない産業は、言葉は悪いですが、ゾンビ企業は切っていくって、新しい産業あるいは伸びていく会社のほうに再教育して人を回すというのは、多分、今後の施策じゃないかなと思うので。

例えば「事業を縮小する見通し」のところは、取りあえずここからは消してしまったらいかがでしょうかというのが個人的な意見です。決して、こうしてほしいという強いものではないです。

○事務局 例えば市内の産業の中でも、少数な展開、少数だけれども頑張っているところも中にはございますので、そこをしっかりと支援するという部分の考え方もあるので、こういうふうなところも残していると。伸びるところだけ応援するのではなくて、とても産業として残していきたい部分もあるというところの意識から、こういう上だけではなくて、下もちゃんと見ているというようなことで目標値はしています。

その前の 31 ページの文章で中段の黄色くマーカーされているところは、まさにその意図的な部分なのですけれども、事業者に寄り添った支援ということで、伸びるところだけではなくて、逆もありというようなところで、そういう意識でまとめていると。

確かに、言葉が確かに難しいのですが、ぎりぎりのところの部分をごとまで見るのかというのは、すごく難しい判断だとは思いますが、視点としては、上も下もというところで、目標値は二つ併記しているという形ということで御理解いただければと思います。

ます。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 ちょうど今この⑤-1-1のところテーマになりますので、私のほうからも、この⑤-1-1に関しまして。パブコメのほうで「新たな企業誘致だけじゃなくて、既存の担い手と次の担い手をどのようにマッチングさせるか」という表現をこのパブコメの方は使われていますね。実際の日本の産業経済界全体を見渡してみても、このいわゆる事業承継、M&Aが金融機関からコンサル会社まで含めて、非常に昨今、活発、活性化してきているという部分があると思いますので、このパブコメの視点は、すごく重要なかなと思います。

これも農業、工業、商業全てにおいて、市内でも言えるかと思うのですが、それに対して、グリーンで書き添えられた表現が、「人材確保にかかる市内事業者のスキル向上に寄与する取組」というのが、この表現だと、どこかから引いてきた表現だと思うのですが、個人的にあまり刺さらないというか、ぴんとこないのもうちょっと具体的なほうがいいのか。マッチングという、いわゆるM&A、事業承継の支援とか、多分パブコメの方の意図はそこにあると思うので。この「スキル向上」という表現だと、ふわっとして、ちょっと伝わりづらいので、ここをもう少し表現的に補強していただければ、読んだ人に何をいわんとしているのかって伝わりやすいかなと感じました、個人的に。

○事務局 ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりで、こちらの表現の引っ張ってきたというのも、今、同時進行で、産業振興ビジョンという、それに特化したビジョン計画というのを並行で策定中です。そちらの担当課と調整したところ、そちらの産業ビジョンでうたっているものを引っ張ってきたといったところです。頂いた意見、おっしゃるとおりだと思いますので、こちらに追記で書けるか、それか答申書とか、そういった部分で要素として残せるのか、これから調整させていただければと思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 よろしくお願ひします。パブコメのほうの一番最後の反映として、この前期基本計画に広域連携における効率という項目を増やされたということなのではございますけれども、これはすごくいい追加だなと思ったのは、ちょうど私が今、考えていたことがありまして。

その広域連携という中で、以前も出たと思うのですが、例えば病院の例にしても、印旛地区ということで考えてはいかがだろうかということが、会長のほうからもあったと思うのですが。

あと、このパブリックコメントの中で、例えばインフラです。鉄道というインフラの中で、ここだけが市の行政の中心であるのに、特急が止まらないであるとか、そういうこと

を含めて、どのように。まず、一番大きな枠の中で、どのような連携とどのような広域を考えていらして、白井市というものが、その中でどのような軸を成しているのだと。

逆に言えば、白井市を中核として、そこで広域として考えておられるのか。それとも、違う想定の中で中核があり、その中で白井市というものがどういう役割を果たしていくのかということを考えておられるのかということが、今までずっと、この会議に出ていて分からなかったことなのですが。

と申しますのも、先月、私は、ほぼこの白井市と同じ人口、5万5000から6万という人口の町に行っただけですけれども、考えられないぐらいに盛況なのです。商業も盛況であれば、人との交流も、お食事に行っても、いろいろな方がいらっしゃる。いろいろな大きなイベントも行われておりました。そこは本当に農村というか、全体が農業の盛んなところだったので、当然いろいろな産物とかあるのですが、かといって観光拠点でもないのに、このにぎわいは何なんだろうという。これを白井にどうにか、このにぎわいというものは、どこから来るのかということを考えて、生かせないだろうかと、ふと思ったのです。

それは日本ではないのですけれども、その国では、人口というのを市の人口ということで考えてはいないのです。一応、統計上は出ます、例えば、そこは5万5000と。広域の人口をその国は基本として考えて、一般的には表示するのです。市の人口を見るのではないのです。その広域人口が、今ちょっと調べたら、12万から15万なのです。

歴史的事情が違うのが、5万5000から6万であれば、その県庁所在地、県の中心であったという歴史的な部分は置いて、ここの広域がどのぐらいになるのか分からないのだけれども、同じようなところで、それだけのにぎわいを生んでいる町というものが現実にあるので。

でも、そこで大事になるのは、広域の中核として白井というものを設計しているのか、それとも、あるところの広域の中心はここだけれども、そこに附属する町として発達していくのか。もっと大きな意味で言ったら、ここは東京のベッドタウンと言っても間違いではないですよ。そうすると、ベッドタウンとしてどう発展していくのか、その視点で全然違ってくると思うのですが。その辺で白井市の立ち位置をどう考えておられるのかということをお聞きしたいと思います。

○事務局 委員からのお話の中でお話しさせていただきますと、そもそも今、千葉ニュータウンというのが、約半世紀が経とうとしているというところが、まず大きな背景としてはあるのですけれども。この千葉ニュータウンというのは、今、委員がおっしゃったとおり、東京エリアのベッドタウンの意味合いでできた町ではあるので、近隣というか、両駅からすると、駅前に特別な商業施設はないというのが、一つのある意味特徴的な部分ではあります。

ただ、今、ベッドタウンということだけではなくて、もう少し駅前ににぎわいが欲しいとか、そういう部分があるので、先ほどもちょっと出ましたけれども、駅前に中心都市拠

点、生活拠点という形で、駅前にもう少しにぎわいを持たせていこうというのは、今後の事業展開としては考えています。

まず、それが一つということと、連携というお話でいきますと、10日ほど前になるのですけれども、実は白井市と印西市とで広域の連携協定を結びました。その視点では、どうということかという、先ほど委員がおっしゃったような、どこかが中心というわけじゃなくて、白井と印西で同じような発展系なのです。もともと農村部、それから千葉ニュータウンという事情があるので、その背景を鑑みて、お互いに補い合いながら発展していくというのが、まず視点として大きなところがあります。どちらかが中心という考え方ではなくて、印西市とはそういう提携を結んでいて、お互いに協力できるものは協力すると。

当然、それぞれの特徴があるので、特徴は生かしながら、協力しながら進めていこうというところで、一つ、そういう事例を持って進めているところ。この視点を今後、広げていく必要があるかと思えます。

例えばですけれども、観光というのは、白井はとても弱いところではあるのですけれども、それを広域的な視点で見れば、これはまだ構想でも何でもありません、考え方です。印旛という大きな枠組みの中で見れば、コンテンツとして、例えば梨狩りができるとか、そういうことが可能であれば、そういうものもあるだろうし。大きな視点で言えば、そういう圏域の中のこまとして何かできるものがあるよねとか、そういう考え方を今後、広く面的に持っていけばいいのではないかという発想で、こういうことを加えていきたいというものになります。

○委員 なかなか抽象的になりますが、それはしょうがないと思えます。

○事務局 これからというところで。

○委員 今の分からなかったところなのですけれども、印西と白井とで共同して発展していくというお考えだと思えるのですけれども、今、補足とおっしゃいました。お互いに足りないところということをおっしゃいましたが、この地域にとって、印西にはなくて白井が補足できるものというのは、具体的に何かございますか。今現在じゃなくても、これからこういうものを補足として担っていけるというようなものの何か具体的なものはございますか。お互いの足りないものとおっしゃったので、白井としては、その部分を担っていける、それを伸ばしていこうというようなことはございますか。

○事務局 具体的なものというのは、なかなか難しいと思えます。お互い同じような当然まちづくりを進めていく中でも、強みと弱みというのがあるので。

例えば白井市のまちづくりということで、市民の活動状況で言えば、印西市よりも少し先進的な部分があったりとか、そういう部分で、お互いに学びながらというのか。難しい部分であるのですけれども、そういうところの中で、お互いにいいところを引き出し合いながら伸びていく。明らかにこれが足りないとか強いというのは、お互いに、そんなには差は多分ありません。そういう部分で、お互いに相互協力的な部分が、意味合い的には強く

なってくるのかなというのがあります。

○委員 最後に1点だけ。今回、同じような規模の町に行って、にぎわいが創出できているということを実感したわけですが、その前に考えていくことが、よくこちらのお手本にされている流山であるとか、いろいろな都市があって、それで若い世代とか子育て世帯の方に定住していただくというところで。

私なりに調べたのですけれども、流山の今現在に至った過程としては、研究機関が何かのそれを見たのですけれども、何の要因が一番大きかったか。流山が今現在このようになっているのは、何の要因が大きいかというところで、ほとんどのそこに携わった方が考えておられるのが、ちょっと印西に似ているのですけれども、大きな商業施設が駅前にできたということです。人口があって、後追いで商業施設ができた。

私はあまり詳しくはないのですが、高島屋が先にできたのでしたか。私は、そのときは千葉に住んでおりませんでしたので、子供の学校にそこから通っていらっしゃる方がいたので、高島屋があるんだと思って、それからしばらくして今みたいな状況になっていて。やっぱり一番大きな要因が、それだけ大きな商業施設があったので、そのような世代が住み着いた。

また、印西も、東京にいてニュースで見ましたのが、ジョイフル本田、あれが一番大きな。そういうものがどんどんできて、それとともに人口が増えていった、若い世代も増えていったということがあって。白井は、それはもう無理だなと思ったわけです。

あと、駅の周辺で、大きな不動産会社が計画的にやっているわけではないという事情も伺って、なかなかこれは難しいなというところで。

それを踏まえた上で、白井に何ができるかということ考えた中で、この広域ということが大事だなと思ったものですから、こういう質問をさせていただきました。

以上です。

○会長 なかなか、まだ方向性が定まっていないところかと思えますけれども、でも広域連携の視点というものを持っていくということは非常に大事で、それが今後の課題ということにさせていただきたいと思えます。

○委員 私も障害者関係の活動をしているものですから、気づいた点を申し上げます。

14 ページです。下の施策目標のところ、上の交流イベント参加者数とありますが、その下の障がいのある人を支援する活動に参加している人の割合、括弧で、既に取り組んでいる人の割合だけではなくて、今後取り組みたいというものを含めた数値を計上していますが、これは実情の感覚からすると、随分、かけ離れた数字になっているものですから。

実際には、障害者に対する理解というのは年々進んできておりますが、残念ながら、その支援活動、実際の支援に関わっているという方は、ここに見る数字から、非常にかけ離れた状態ではないかなというのを日々感じております。

それで、今後取り組みたい人の割合を加えた数字ですから、となると、参加している人

の割合というのは、表現がまずいのではないか。もし、このままの数値を採用するのであれば、活動に参加意向のある人の割合ということであれば、いいのかなど。はるかに少ないのが実情ですから。これを見ると、随分進んでいるなという印象だけを強く受けるので、修正が可能であれば、先ほど申し上げたように、参加意向のある人の割合というくらいにされたらいかがかなと思います。

○事務局 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、表現を修正できればと思います。

○委員 お願いします。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 先ほど委員が取り上げてくださったパブコメの12ページ、同じところです。このパブコメの方のおっしゃりたかったことの一番メインのところは、「他地域で同様の課題を解決した事例を参考に」ということを挙げられているので、多分、白井と同じような課題をここの市町村は解決したみたいだねみたいなことが見つければ、そこに視察に行こうとか、そこで取り組まれた方、企業、団体があれば、ちょっとお呼びしようとか連携しようとか、そういうことをイメージして、これが書かれたのではないかと思うのです。

もちろん、先ほど委員がおっしゃっていましたように、実際、白井と同じぐらいのところを国に限らず視察してみたら、広域で発展を捉えているんだなというのは、それはすごい事例だと思いますし、実際、広域で捉えていこうというのは、そのとおりかなと思うのですけれども。それだけだと、船橋とか東葛とか印旛とかという、464と16号とでつながっている範囲になってしまう。近隣で手を取り合うのももちろんあるかと思いますが、多分この方が言いたかった本心は、白井の近隣広域だけでなく、近隣でないけれど白井と同じような人工五、六万人のエリアで、この課題を解決しているというところに目を向けられたいということだと思いますが、その部分は特に反映されていないのではないかと感じましたので、どうなんでしょうかと思いました。

○事務局 ありがとうございます。どこで読み取るかといったところがまずあるのかなと思います。構想においても、連携といった部分が掲げられておりまして、また、43ページの地域力を活かしたまちづくりのところでも、企業連携といった部分と、あと47ページの広域連携というところにも書いているところでして。おっしゃっていただいていることも分かりますので、それをどこに追加するのかといったところとかは、これから会長等と調整させていただければと思います。

○委員 ありがとうございます。市からの回答は、「他地域での優良事例を参考に、まちづくりを推進してまいります」ぐらいの説明になっていたのですが、「ここにこう書いてあります」というのがあれば、それは、なるほどなと私も思いますので、お願いします。

○委員 ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 先ほどフロントランナー事業の話で、私、勘違いしてしまっていて、中心都市拠点、生活拠点づくり事業のフロントランナー事業ということで、さっきの資料にもありましたけれども、それが六つの政策に全てつながっていると、そういう話ですよ。

それはよく分かったのですけれども、このA3の資料を見ると、この六つの政策の中で、三つの政策にはフロントランナー事業が入っているのですけれども、ほかの三つの事業に入っていないのがちょっと気になって。多分これ、ほかの三つの政策にも多分書けるような気がするのですが、これをあえて書かなかった理由はありますか。

○事務局 あえて書かなかった理由は特段ないのですけれども、どの事業にも言えるのですけれども、どのまちにも、うっすら関わりは絶対生じてはくる中で、より色濃いところを表現した結果、三つのまちになったといったところになります。

これから、また実施計画のほうは詰めていきますけれども、そこで六つのまちに掲載できるのか、はたまたちょっと違う表現の仕方をするのか、調整させてください。

○委員 私の意見としては、そこのフロントランナー事業は、六つの政策を底上げしていくという位置づけだと思うので、それぞれの政策ごとに入れていただいて、それぞれ関係していて、ちょっとずつ政策が上がってきますという位置づけにさせていただいたほうが分かりやすいという感じがしました。意見です。

○会長 大体よろしいでしょうか。ほかに御意見があれば。

最後に私のほうから申し上げたいと思います。ここに書いてあることは、基本的に大分よく修正いただいたなと思います。

今後、実施計画をここに貼りつけていって、さらに運用していくという中で、少し気になるのは、例えば16ページのところで、さっき子ども食堂の話も出ていましたけれども、子ども食堂などの子どもや若者などの交流できる場を創出するということが掲げられていますけれども、下手をすると、例えば、子ども食堂を立ち上げるということが自己目的化してしまうということは、多分、本来と違う趣旨だと思います。これは、子ども食堂を立ち上げた方々がまさに今、おっしゃっているところであって、子ども食堂は自己目的ではないと。つまり、そういう状況をつくり出さない施策をしていくことが大事なわけだから、そういう視点を行政の立場としても、しっかり持っているかどうかということが問われますし。

ここでは、コミュニティの中にこういった動きを位置づけながら、いろいろな子供たちを支える動きをもっと横につないでいくだとか、あるいは子供たちが、もちろん食べるということもそうだけれども、これから成長して、いろいろなキャリアを切り開いていくという中での支援というものをどうしていくのか、そういう空間的、時間的な広がり、つながりの中で、その環境を整えていくということが、根っこにある発想だと思います。

これは行政が担当課をはじめ、その辺の意識を持っていないと、下手をすると、子ども食堂の数を増やしていけばいい的な話になってしまったら、どんどんずれていってしまう

気がしますので、そういう視点をちゃんと持っていくというのは、運用上の中で少し考えていく必要があるかなと思います。ほかのところにも言えることですが、こういう視点が大事かなと思います。

それから、大きな話を最後に申し上げると、一つは、このフロントランナーで、狙いも考え方もよく分かるのですけれども、ここをどういうふうに具体化していくのかというので、先ほど委員がおっしゃったように、それぞれのところで少しずつ底上げを図っていくという位置づけをしっかりと持たせていくということも大事ですし、それぞれの取組があるのだけれども、これがどう有機的に結びついてくるのかというあたりも大事で、こういう事業をやりますよということも大事だけれども、例えば、宇沢弘文さんではないけれども、社会的共通資本のようなものをこの中にどんどん捉えていって、そこでいろいろな人たちが例えば投資をしていくだとか、参加をしていくだとか、そこから支え合いが生まれる、福祉が生まれる、雇用が生まれる、そういう動きというものをつくり出していくのが、こういうフロントランナーのような事業なのだと思います。

ただ事業をやればよいということではなくて、そこからどういうものが生み出されるか、そのためにどういうものが注ぎ込まれていくのか、この辺を考えながら回していかないと、ただ単にいろいろな事業を結びつけましたで終わりかねないところもありますから、その辺もちょっと注視する必要があるのかなと思います。

あと最後、広域連携のところですが、広域連携は、今後、間違いなく必須の課題になっていくと思います。今後、合併という話も出てくるかもしれませんが、合併よりもやっぱり広域連携というものをどう、具体的な課題に即して模索、具現化していけるかどうかということが問われてくると思います。

このときに、どうしても広域連携なので、その絵を描くということが難しく、千葉県内いろいろな広域連携が問われているところもありますけれども、どこもうまくいっていないのが実情です。もちろん、いろいろな取組をやるということはいいいけれども、決定的に欠けているのが、ある種のストーリー性です。ストーリー性がないから、いろいろなことやろうと言っても、それがつながってこないのです。

例えば、印西と補完的な協定を結んだということですが、補完し合って何をするのかというものがないと、多分その補完というのも結局、絵に描いたもちになりかねない。

そのためには、もう少し具体的なストーリーというものを描いて、その中で、それぞれができるものを生かしていけるということを考えていかないと、抽象的なもので止まってしまうなという懸念がちょっとありますので、どういう意味での広域連携をつくっていくのか。

例えば私は今、香取市とか佐原にはずっと長く関わっていますけれども、もう観光のまちづくりは限界なのです。次なるまちづくりをどうしていくのかといったときに、いろいろな動きの中で今、見えてきているのは、間違いなく発酵なのです。

発酵のストーリーをどうかということをいろいろ今、練ったり、行政も、例えばスロースィティのようなものを掲げてやったりとか、スローフードを考えるととか。あそこは発酵というのは、もともと歴史的に培われてきたいろいろな動きがありますから、それでまた各地域、白井で言うところのまち協です。それぞれのところで、発酵に絡めての動きがどんなことができるかということは今どんどん模索しています。

さらには広域的にというので、今度、利根川流域を考える。利根川流域というのは、銚子もあるし、東庄もあるし、さらには佐原があつて、それから神崎があつて、野田があつて。要するに利根川流域という広域連携まで考える。そうすると、狭い意味での食としての発酵もあるけれども、発酵は食だけではなくて、化粧品だとか、そういういろいろな産業にもまたつながるというので、そういう視点での模索も今どんどん進んでいるというのがストーリー性です。

例えば香取とか佐原であれば、歴史というものが一つのストーリー性になって、その歴史の中で今、それから、これからをどういうふうにもた膨らませていくのかという視点で考えてということです。そうすると、単なる頭の中で考えたことではなくて、様々な時間軸であったり、場所が持っている履歴であったり、いろいろなものを絡めながら、この土地、この場所には何がふさわしいのか、何が必要とされているのか、これをいろいろ練り上げていくというのが、広域連携のベースに必要なことなのかなと思います。

ただ、これを議論する場は今ほとんどありません。この辺も今後に向けて、広域的な連携はこの辺どうあるべきか。もちろん印西との連携というのものもあるでしょうし。印西との連携は、もちろん商業施設との補完性というのものもあるけれども、例えば歴史的なことを考えれば、何でもう少し木下街道の存在意義を高めないのかと、僕は昔から思っているのですけれども。木下から都市部をつなぐ大事な重要な道なわけです。それが非常に疲弊してしまっているところから、また絡めて、いろいろなことを考えていくということも、あり得ると思います。

それは、ほんの一例に過ぎませんが、いずれにしても、そういう印西との連携もそうだし、立地上いろいろなところとの連携というのは、あり得るでしょうから。いずれにしても、そういうものを練っていく場というのもの、今後いろいろつくっていくということが問われてくるかなということだと思います。それだけ今日のところは指摘させていただきたいと思います。

特に御意見等よろしければ、議題の一つ目は、ここで終了とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、議題の一つ目は以上とさせていただいて、議題の二つ目ということで、その他、事務局からお願いいたします。

○事務局 その他なのですけれども、今後の流れについて御説明させていただければと思います。

今日この後、大至急、今日の意見等を会長と調整させていただいて、この答申に添える答申書といったものの案を作成いたします。それを皆様に依頼文とともにお送りしますので、そちらを確認いただいて、御意見等ありましたら、期間がちょっと短くて恐縮なのですけれども、27日の月曜日までにメールもしくは電話等でも、もちろんファクスでも大丈夫ですので、御意見頂ければと思います。

そちらの依頼文につきましても、至急作成して皆さんに、メールと同時に郵送でもお送りさせていただきますが、御依頼させていただきますので、そちらのほう御了承をお願いしたいと思います。

答申書につきましては、その後、また会長と詰めさせていただきまして、最終的に10月31日に、市長に対して答申を行うといった流れを考えているところです。

以上となります。

○事務局 ほかに皆さん意見がないようでしたら、一言お礼を申し述べたいのですが、よろしいでしょうか。

この総合計画審議会、大人数でやっておりまして、足かけ3年になりますか、委員の皆さんには、御審議いただきまして、ありがとうございます。会長はじめ皆様からは、多角的な視点から、いろいろな具体的な意見、大きな視点からの御意見を頂いたと思っております。大変勉強になりましたし、参考にもなりました。

執行部では、当然、この総合計画をつくるに当たっては、まずは住民意識調査、アンケートが始まって、市民ワークショップ、市内部会、庁内の部課長、職員、パート職員も含めて、何度も何度もこの計画をたたいてきました。それを踏まえて審議会に上げさせていただいて、本日もいろいろな意見を頂いて、可能な限り皆さんの意見を反映させるように努めてきたところです。

今後、10月31日に、正式に答申ということをご予定しておりますので、答申を頂きましたら、12月議会、11月の終わりぐらいから始まってしまうのですけれども、市議会のほうに、ここまでいろいろと皆さんに御意見を頂いてきたものですから、執行部としましては、自信を持って御説明して、提案をしていきたいと考えております。最後になりますけれども、これまでありがとうございました。

以上です。

○会長 それでは、今、説明がありましたように、答申という形で、今日頂いた御意見等を含めて、最終的な取りまとめをさせていただいて。それに付け加えるというか、この原案をこういうふうな形で運用していってくださいというものを箇条書きで書いたような文面をそれにつけて、市長のほうに提出する、答申するということとなります。その文面は、私と事務局のほうでたたき台を作らせていただきたいと思いますので、それを皆さんに御覧いただいて、修正をした上で、答申に間に合わせるということにさせていただきますと思います。

ということで、第3回の審議会、以上で閉じさせていただきたいと思います。お疲れさまでした。